

HSK NPO 法人「文福」ニュース*****



「障」ちゃん



NO.298

冒頭の一言

今年の冬は雪が凄かったですね。まあ 4 年前の大雪に比べると、今年の積雪は大雪ではなく中雪かとも思いましたがね。(笑)

私なんかは、「春は本当に来るのかなあ。」と一瞬思いましたが、ちゃんと春は来しましたね～。

この時期になると皆さん、『どっか行きた～い。』となるのではないのでしょうか？春風に誘われてお花見、ピクニックなど色んな所に出かけましょう！

どこかにお出掛けになり家に帰られた後、この「障ちゃんニュース」をごゆるりとお読み下さい。

kaokao

—もくじ—

冒頭の一言 … 1 ヘルパー緊急募集 … 2-3

Penko … 4-5 運営会議報告 … 6-7

障害者部会報告 … 8 「まっち」31 号の原稿大募集 … 9

ありがとうコーナー … 10

ヘルパー緊急募集

日下正秀

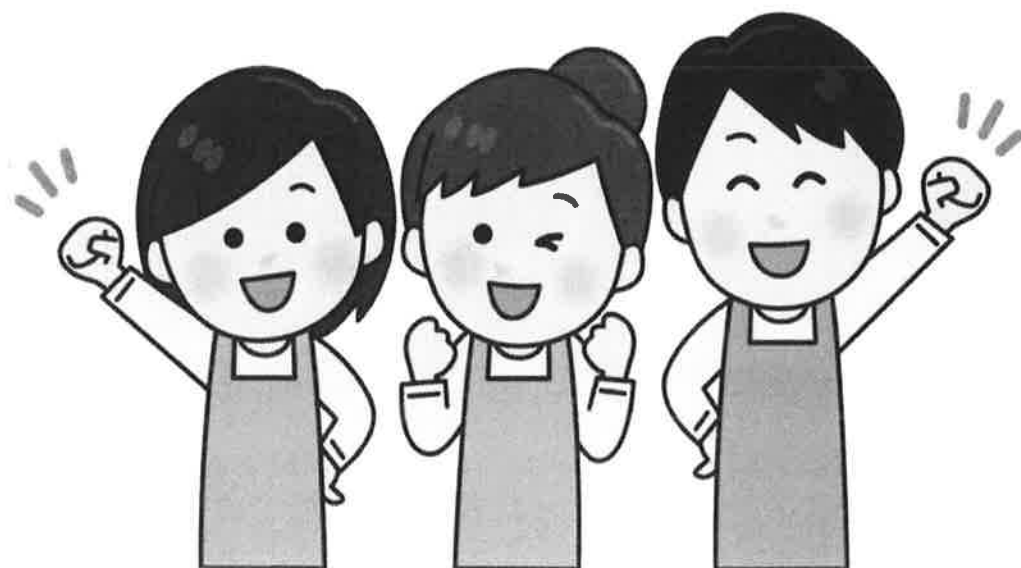
俺は NPO 法人文福の脳性マヒの会員だ。あと 1 年半で 6 回目の 12 歳の誕生日を迎える。普段の身の回りの事や外出は介護者がいなければ出来ない状態だ。介護の社会化と言われ始めた頃、ようやくヘルパーとして人を雇うことが当たり前になり始めた。ずっと自分自身の毎日や週間、月間の行動の計画をケアマネージャーや相談員などを入れずにセルフプランを申請し 20 数年そのままに通してきた。セルフプランでの介護料の申請を始めた当初は、介護派遣事業所が大変少なく、障害者のニーズにあった介護事業所も全く無かったことから、文福以外の事業所は 1 か所しか入れてこなかった。その 1 か所も、他の事業所も相談員を入れないとセルフプランは認められないと行政から言われ、社協のヘルパーを入れた名残が今まで続いている。その社協もとうの昔に、ヘルパー派遣を辞めてしまっている。なぜ、文福以外の事業所やヘルパーを入れなかったかと言われたら、その方が、自身に支給された仕事を文福に回せると考えていたからだ。障害者施策が施設収容から障害者の地域移行が進む中で、介護の社会化が進んできた。

世の中では人手不足が叫ばれているが、文福もまた御多分に漏れず、ヘルパーやパートタイム、アルバイトのなり手がいなくなり始めている。ヘルパーを増やすためには障害者自身が動かなければならないのだが、障害者が動くため生きていく為にもヘルパーが必要となってくる。ヘルパー不足で文福

が潰れてしまうという悲鳴が上がり、文福以外の事業所を入れようとした時に相談員という存在が仲介しなければ、他の事業所に入ってもらふ事は難しい事から相談員を付けようとした。しかし、ヘルパー事業に詳しい人物に話した所、相談員が見つかったからと言って、ヘルパー事業所をどんどん入れられるとは思ふなよと、忠告された。だが、今は自分の相談員を見つけるしかない。俺の相談員、今募集中です。

しかし元々はヘルパー緊急募集だ。

追伸、その後、相談員は何とかなりそう。ヘルパーは、事業所個人共に募集中。





Penko のおひとりさま
珍道中!! (Part71)

2月の3連休の1日目の夜から左側の奥歯が痛み出し、日を追うごとに痛みの感覚が短くなり、痛み止めの薬を数回飲んだが、それでも治まらず、3連休明けの火曜日に飛び込みで予約をして、午後から歯医者さんへ行きました。歯茎も腫れていたということで痛み止めと腫れ止めの薬を処方してもらったが、帰り道に顔の左半分に違和感を覚え、夜のヘルパーさんに「ぶつぶつができています」と言われた。その日の夜中から顔の半分が痛み出し、鏡を見たら、水ぶくれがたくさんできていて、仰天した。朝来てくれたヘルパーさんに「带状疱疹では」と言われ、ネットで皮膚科専門の医院を探して行きました。

やはり「带状疱疹」と診断され「入院してください」と言われました。紹介状を書いてもらってその足で総合病院へ。そこでも同じ診断されてその日のうちに入院と言われていたのですが、諸事情により次の日に入院の運びとなり、次の日入院の書類を書いたり荷造りを手伝ってもらい、病院に入りました。

歯が痛み出した頃から、食欲もなくなり、食事もおかゆにしてもらいまし

た。初日に採血があり、はじめは点滴と言われていたのですが、投薬治療になりました。なので病棟内を動き回ることができました。

入院中は、シャワーを 3 回してもらい、鏡を見るたびに自分の顔にショックを受け、また更にショックだったのが姪っ子に赤ちゃんが誕生し、会いに行けなくなったことでした。入院中に誕生日を迎えました。トイレも出入り口がスライドではなかったため、看護師さんに介助してもらっていました。

带状疱疹にかかるには心当たりがありました。良くないことが重なりストレスになっていたこと、あと先生に「疲れが溜まっていたのではないか。」とも言われたのですが、「疲れていたのかなあ・・・」と自分でも思いました。

楽しくなるはずの食事もなぜか恐怖でした。

治療の甲斐あって、水ぶくれがなくなり、かさぶたとなって 10 日後に退院できました。病室は暖かすぎて暑かった。外に出たら寒かった。

まだ左半身の神経は痛いのと、食べ物はプリン・ゼリーやヨーグルト、果物が食べられるようになりました。

最初に行った医院の先生も、入院した病院の先生も女の先生でしたが、良い先生でした。病院のスタッフの皆さんの仕事ぶりを見て新鮮で刺激を受けました。

実は初めての入院でした。

3 月 11 日記

運営会議報告 2 月 25 日火曜日

●各部からの報告

- ・ **学習会** 今後の予定は未定。

- ・ **障害者部会** 8 ページに詳細を掲載しています。そちらをご覧ください。

- ・ **派遣** 虐待防止の研修をやろうと考えている。

- ・ **レクリエーション** 本年度の活動はなし。
4 月にボッチャがあります。4 月 19 日 13 時半から福祉プラザでを行う。
参加費 200 円。みなさんぜひご参加ください。

- ・ **障ちゃんニュース**
3 月 1 日発行号は印刷終わった。
発送作業この雪の中ですけどご協力お願いします。
住所のシールの印刷は近日中に行います。
4 月 1 日発行については、3 月 7 日締め切りで 2 1 日印刷。
内容はぺんこ、各部の記録、
他の編集委員にヘルパー不足について書いてもらう。

・ まっち

30 号、「自分の推し」を発行することができた。

みなさんありがとうございました。

31 号のテーマは「歳を経て」

原稿の〆切は 4 月末日、発送は 5 月末日の予定

みなさんからの原稿を編集者一同お待ちしております。よろしくお願いします。

●その他

NPO の団体のリレー原稿について、他事業所が了解して書いてもらえることになった。

次回の運営会議は 3 月 25 日（火）14 時から

3 月 4 日障害者部会議報告文

オンライン参加者・2 名・欠席者・1 名

- ① 理事長が作成した NPO 団体のリレー文を部員で確認し、了承を得たので文章を提出する事となった。

② 2025年度障害者部会活動計画

- 1、サンフォルテフェスティバルは参加締め切り日が過ぎたので皆でそれを見に行く。
- 2、慢性的なヘルパー不足を少しでも解消できるように、皆で考え行動をしていく。
- 3、市内電車や低床バスが、障害者や高齢者やベビーカーも利用しやすいように、富山地方鉄道へ申し入れをしたり要望書を書く。
- 4、自分達が住んでいる地域のバリアフリーが進むように働きかけていく。方法としては、その地域に住んでいる部会員が核になり、申し入れをしたり、要望書を書く。そうする事により、誰もが住みやすい地域になるようにしていく。
- 5、障害者部会員の高齢化に伴う重度化がひっばくした問題となっているなか、次世代の文福を担う若手の障害者部会員が入ってこない、障害者部会はなくなってしまう。他の障害者達に声をかけて、障害者部会員の仲間作りや若返りを図る活動を行っていく。

③ 2024 年度の総会について

今年度の総会は、午前は総会で午後からは研修となった。

内容としては障害者スタッフが各々の生活面をプレゼンテーションして、文福のスタッフ(ヘルパー)に自分達の生活を知ってもらう。

- ④ 花見については 4 月 8 日火曜日に行う。料理は昨年と同等で実施する。
花見場所と時間については後日、皆に知らせる。

次回の部会は 2025 年 4 月 1 日(火)14時から行う。

文責・中村

「まっち」31 号の原稿大募集

季刊誌「まっち」個人史・社会問題・そして人と人を結ぶことを目指し発行しています。

その「まっち」30 号テーマ『自分の推し』を発行する事ができました。これもひとえに皆さんが原稿をお寄せ下さったおかげだと思っています。この場をかりて深くお礼を申し上げます。m(____)m

さて、次号のテーマは『歳を経て』です。

誰にでも平等に時は流れ歳を経ていきます。若い頃にはできていた事ができなくなったり、痛い所が増えたりとか、若い頃とは考え方が違ってきたりとかありますよね。

また子供の頃には考えもしなかったような事を大人になり考えた。とか、子供の頃の想いと、大人になった今の想いとは違う事が多々あるかと思えます。

そんな貴方の気持ちや想いを書いて【まっち】にお寄せ頂ければ嬉しく思います。

皆さんからのステキな原稿を編集者一同お待ちしております。

原稿締め切り 4 月末日 発行 5 月末です。

もちろん、他のテーマや詩や俳句、川柳、短歌、イラスト(絵)等の原稿もお待ちしています。



ありがとうコーナー

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今後もよろしく願います。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



ようやく、3月になりましたが、ひな祭りの日にも雪が降り、10日過ぎても寒い日が続いています。アメリカロサンゼルスの山林火災だけではなく、日本の岩手県大船渡市で起きた山林火災では、多くの山や民家も燃えました。被害に合われた方々に心からお見舞い申し上げます。

さて、4月は、新しい年度初めです。新しい出来事があったりするかもしれないと、少し気持ちもワクワクさせながら過ごしましょう。

(アパッチ) より。

* 2024 年度新規会員・継続会員 *

三井 真知子さま

発行人：北陸障害者定期刊行物協会 富山市今泉 3 1 2

編集人：特定非営利活動法人 ^{ぶんぶく} 文福

〒930-0138 富山市呉羽町 7276 番地 3

e-mail: bunpuku@ab.auone-net.jp

HP: <https://bunpuku.org/>

TEL/FAX (076) 460-0390

定 価 50円

※文福の会員の方は、会費に購読料を含んでいます。